

第 23 回防災文化講演会『災害情報が危機回避行動と復興活動に及ぼす影響』を開催しました(2018/05/19)

テーマ：災害情報

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesenuma/kouenkai.html>

5月19日(土)に、気仙沼市魚市場にて、防災文化講演会『災害情報が危機回避行動と復興活動に及ぼす影響』(主催：東北大学災害科学国際研究所、共催：気仙沼市)を開催しました。当研究所は平成25年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに、気仙沼分室を気仙沼市内に設置して、防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでいます。その活動の一環として、防災に関する講演会を年に数回開催しています。

第23回を迎えた今回は、「災害情報が危機回避行動と復興活動に及ぼす影響」をテーマに4つの講演を行いました。講演では、当研究所 災害リスク研究部門のサッパシー・アナワット准教授から「東日本大震災後、津波観測・警報システムの改善、残っている課題」、人間・社会対応研究部門の邑本俊亮教授から「災害時、人は何を思い、どう行動するのか」、寄附研究部門の瀧川裕貴助教から「災害に対する社会の見方の変遷」と題して講演を行いました。また、ゲストとして株式会社ラチオ気仙沼の代表取締役・昆野龍紀様をお招きして「災害情報を伝える、地元メディアの役割」として、東日本大震災発生直後に立ち上がった臨時災害放送局やコミュニティFMの取り組みについてご講演いただきました。全体進行は、佐藤翔輔准教授(情報管理・社会連携部門)がつとめ、32名の方にご参加いただきました。市民のみなさんから多くのご質問をいただき、盛会のうちに終わりました。



講演①
サッパシー アナワット准教授



講演②
昆野龍紀氏



講演③
邑本俊亮教授



講演④
瀧川裕貴助教



会場の様子